



小学校中学年《3・4年生》のみなさんへ

夏休みおすすめ本リスト

登別市立図書館 [2016年版]

	書名 作者名 しゅっぱんしゃ	ないよう
絵本	「さみしかった本」  ケイト・バーンハイマー 文 クリス・シーバン 絵 福本 友美子 訳 岩崎書店	図書館に入った新しい本は、みんなに読まれてしあわせでした。 でもだんだん古くなった本は、だれにも読まれなくなり、わすれられてしまいます。 ある日、そんなさみしい本を手にとった一人の女の子がいました……。
絵本	「おばあさんのしんぶん」  松本 春野 文・絵 岩國 哲人 原作 講談社	どうしても新聞が読みたかったてつおが新聞配たつを始めると、あるお年よりのふうふが新聞を読ませてくれるようになりました。 時がすぎて、おじいさんもおばあさんも死んでしまってから、てつおは思いもよらなかった事を知ります。実話をもとにしたお話です。
絵本	「希望のダンス」  洪谷 敦志 写真・文 学研教育出版	エイズで親をなくし、まずしさからぬけ出せずにいるウガンダの子どもたちは、ダンスに出会って始めて自分のゆめを持ち、歩み出すことができました。 ウガンダに住む子どもたちのげんじつを、写真で、しょうかいしています。
図書	「ねこの風つくり工場」  みずの よしえ 作 いづの かじ 絵 借成社	町からすこしはなれた小高いところに、一日中いそがしい音を立てている工場があります。 この工場の中では、町に住んでいるねこたちが、いろいろなざいりょうを使いながら、町をふきわたる風を作っていました。
図書	「バアちゃんと、とびっきりの三日間」  三輪 裕子 作 山本 祐司 絵 あかね書房	小学5年生の祥太(しょうた)は、のんびりすごしたかった夏休みに、3日間だけバアちゃんをあずかることになってしまいます。 そのせいで、祥太は遊びにも旅行にも行けなくなるのですが……。あつくて長い夏休みの三日間です。

	書名 作者名 しゅっぱんしゃ	ないよう
図書	「食べているのは生きものだ」  森枝 卓士 文・写真 福音館書店	わたしたちは何かを食べる時に、生きものの命をいただいているという実感がないまま、くらしています。 血となり肉となって、生きる力をあたえてくれたたくさんの命のことを、あらためて振り返ってみませんか？
図書	「あたまをつかった小さなおばあさん」  ホープ・ニューウェル 作 松岡 亨子 訳 山脇 百合子 画 福音館書店	おばあさんは毎日、頭をつかったのしくすごしています。たとえば、エプロンが短かかったら上を切って下にぬいつけたり……。そんなおばあさんの、思わずわらってしまうようなお話ばかりです。
図書	「犬をかうまえに」  赤羽 じゅんこ 作 つがね ちかこ 絵 文研出版	犬がほしい小学4年生の空斗(くうと)。でも家ではどうしても犬が飼えません。 そんな空斗に、「犬のさんぽボランティア」をやってみないか、という話がまいこみました。 かいまさんのかわりに、犬のチャッピーをさんぽさせることになりましたが……。
図書	「よみがえる二百年前のピアノ」  佐和 みずえ 著 くもん出版	有名な作曲家が生きていたころに作られたピアノは、戦争にまきこまれ田舎でほこりにまみれていました。 ボロボロのすがたから、元のじょうたいへともどし、二百年前の音をかなでさせる、ピアノ修復家(しゅうふくか)たちの仕事を追います。
図書	「ドリトル先生物語」  ポプラ世界名作童話9 H.ロフティング 作 舟崎 克彦 文 はた こうしろう 絵 ポプラ社	イギリス生まれのジョン・ドリトル先生は、なんと動物たちと話ができてしまうのです。 動物の医者になったドリトル先生が、いろいろな動物たちとくり広げる楽しくて、ゆかいなお話がいっぱいです。